

【仮訳】

第 X.X.X.章 アニマルウェルフェアとブロイラー生産

第 X.X.1.条 定義

本章の目的のため、以下を定義する。

ブロイラー

主に商用の肉を生産するために飼養されている *Gallus gallus* 種の鳥。

捕獲

食鳥処理場に輸送するため農場において鳥を捕まえて積載すること。

スラット状の床

ブロイラーが、糞が床に留まらずに床の下に抜け落ちる上げ床の上で飼育されているシステム。

第 X.X.2.条 適用範囲

これらの勧告は、商業目的のブロイラー生産システムにおいて、雛が農場に到着するところからブロイラーを収穫するまでの生産過程が対象である。このシステムは、ケージ、スラット状の床、寝ワラあるいは泥土、屋内あるいは屋外で飼養されているブロイラーを含んでいる。裏庭で飼育されているブロイラーは、たとえブロイラーやその生産物が地域内で取引されていても、対象とはならない。

輸送から食鳥処理場に至るまでのブロイラーのウェルフェアについては、第 7.2、7.3 及び 7.4 章にも準拠すること。

第 X.X.3.条 商業目的のブロイラー生産システム

商業目的の生産システムは以下を含む：

1. 閉鎖システム

ブロイラーは、環境管理をされているか又はいない状態で完全に家きん小屋に収容されており、通常他の生産システムより高い飼養密度で飼養されている。ブロイラーは寝ワラやスラット状の床、あるいはその組み合わせの床におかれたケージで飼養されることもある。

2. 半閉鎖システム

ブロイラーは家きん小屋に収容されているが、屋外の限られたところへの出入りが可能である。

3. 開放システム

ブロイラーは生産過程全てを通じて家きん小屋に収容されておらず、通常、閉鎖システムや半閉鎖システムよりも低い飼養密度で飼養されている。

第 X.X.4.条 ブロイラーのウェルフェアのための基準又は指標

指標は、ブロイラーの状態（アウトカムベース基準）あるいはシステムのデザイン（リソースあるいはデザインベース基準）に基づき表すことができる。ブロイラーの状態に基づく指標は、リソースに基づく指標よりもより良くウェルフェアを表す指標となる。なぜなら、アウトカムベースの指標は、複雑に相互作用する様々な影響要因（例えば、飼養者の経験及び態度並びに疾病状況）を反映するからであり、これらは、システムのデザインに焦点を当てた指標に頼った場合見過ごされてしまう可能性がある。

現時点では、数値を指標として示すのは現実的でない（例えば、ある死亡率を“許容可能”あるいは“最適”として特定すること。OIE 加盟国によって使用されている生産システムが多様であるため。）。しかしながら、数値はパフォーマンスをベンチマークする際に有益なこともある。ベンチマークは、現時点における商業目的の農場におけるアウトカムベース指標の発生状況を評価し、そして、それらの問題が管理と遺伝的な選抜によって低減され得る程度を決定することによってなされる。いくつかの指標は農場の状況（例えば、歩行の状態、死亡率そして罹患率）によって計測できるが、食鳥処理場において計測するのが最良である指標もある。例えば、処理される群については、打撲、翼の骨折及び損傷によって評価することができる。これら損傷の古さは原因（例えば捕獲）を特定する助けとなる（Nicol&Scott, 1990）。背中への引っかき傷、くちばしや足の炎症や胸ダコも容易に見つけることができる。腹水、足の奇形、脱水や疾病状況のような他の状態も評価できる。商業用ブロイラー生産のウェルフェアの指標としての数値は、国、セクターあるいは地域の適切な基準を参照して決定することを推奨する。

以下のアウトカムベース指標はブロイラーのウェルフェアの指標として有用である。

1. 死亡率（死亡、淘汰）及び罹患率

一日当たり、週当たりそして累積の死亡率（死亡、淘汰）及び罹患率は想定される範囲であるべき。特定の疾病に関連せず、一日当たりの死亡率あるいは罹患率が急激に増加した場合、それはアニマルウェルフェア上の問題の反映である可能性がある。

2. 歩行の状態

ブロイラーは様々な感染性及び非感染性の筋肉組織の異常を生じやすい(Mench, 2004 を参照)。深刻な場合には明白な跛行を示し、それほど深刻でない場合には歩行異常を示す可能性がある。跛行あるいはより深刻な歩行異常を示すブロイラーは食べ物や飲み水に近づくことが困難である可能性があり、他のブロイラーによって踏みつけられたり、痛みを受けたりする可能性もある。筋肉組織の問題には、遺伝、栄養、衛生、光、敷料の質、その他環境や管理の面に関連するものなどの多くの原因がある（Mench, 2004; Dawkins ら, 2004 参照）。商業用のブロイラーの群は歩行異常について評価される

べきであり、また、その後の群における問題の発生を低減するために改善策を定めなければならない。歩行状態については、いくつか利用可能なスコアリングシステムがある (Kestin ら, 1992; Garner ら, 2002; Webster ら, 2008; Weeks ら, 2002; Beg と Sanotra, 2003)。スコアリングや評価のシステムにかかわらず、餌や水に近づくことのできないブロイラーは、発見次第、できるだけ速やかに人道的に安楽殺すべきである。

3. 接触性皮膚炎

接触性皮膚炎は、足の裏、膝節の背面表面、そして深刻な場合には胸部の皮膚が長期間にわたり敷料やその他床表面に、接触することによって起こる。その状態は、足の裏の皮膚、膝節の背面、時として胸部において浸潤と線維化へと発展する皮膚の黒化として認められる。脚と飛節の部位の状況が深刻な場合は、歩行困難となったり、二次感染の侵入部位となったりすることもある。接触性皮膚炎のスコアリングシステムがいくつか開発されている (Welfare Quality, 2009)。

4. 羽毛の状態

ブロイラーの羽根の状態を評価することは、ウェルフェアの観点から有益な情報となる。羽根の汚れは鳥の球節の炎症と歩行異常に相関している (Arnould と Colin, 2009)。羽根の汚れはブロイラーを食鳥処理場に輸送するため捕える際に評価することができる。このためのスコアリングシステムが開発されている (RSPCA, 2008)。

5. 疾病、代謝異常及び寄生虫感染の発生率

腹水、突然死症候群及び呼吸器疾患 (感染性気管支炎、鳥肺炎ウイルス感染及びマイコプラズマ症を含む) はブロイラーの経済及びウェルフェアの観点から大変重要である (SCHAW, 2000)。

6. 通常行動

ブロイラーの行動は、ウェルフェア問題に対する感度の良い指標となり得る。

6. 1 恐怖反応

恐怖を感じたブロイラーは人を避ける。この反応は、飼養者がブロイラーと交流しながらゆっくり動く時ではなく、仕事をしながら急いで鳥小屋の中を歩いて通り過ぎる時に、群れにおいて見られる (Cransberg ら, 2000)。恐れ (例えば、突然の大きな音) は、ブロイラーが互いに上に乗る状態、さらには、窒息をさせる状態を引き起こすこともある。恐怖を感じたブロイラーの生産性はより低くなるかもしれない (Hemsworth ら, 1994)。

6. 2 空間的分布

鳥の空間的な分布における変化は、温度面の不快感を示している可能性がある (例えば、ブロイラーは寒いときに群れ集まる)。あるいは、(もしブロイラーが不均等に分布するのであれば) 敷き料が濡れているところがあったり、光、食物あるいは水の給与が不均等であったりする状態を示している可能性がある。

6. 3 パンティングと羽翼を広げる行動

喘いだり翼を伸ばしたりすることは、暑熱ストレスを示す。

6. 4 砂浴び

砂浴びはブロイラーも含め多くの鳥達によって行われる複雑な体のメンテナンス行動の一つである(Olsson と Keeling, 2005)。砂浴びの間、鳥達は彼らの羽根を密でない物質

(敷きわら床システムの敷き料のような)を通す。砂浴びは羽根を良い状態に保ち、結果として体温を保ち、皮膚を怪我から守るのに役立つ。群れにおける砂浴び行動が減る場合には、敷き料や地面が濡れているあるいは粉状ではないなど、敷き料や飼育場所に問題があることを示している可能性がある。

6. 5 採餌、飲水及びついまみ

採餌や飲水行動の減少は、不適切な給餌器や給水器のスペースや場所、栄養の偏り、不良な水質、あるいは飼料の汚染を含め、管理上の問題があることを示している可能性がある。採餌、飲水行動はしばしばブロイラーが病気の時に減少し、また、採餌行動は、暑熱ストレスを感じている間も減少し、冷寒ストレスを感じている間に増加する。採集の典型的なものは、歩いて敷き料をついたり剥がしたりすることによって食べ物を探す活動である。採集活動の減少は、敷き料の質に問題があるか、鳥の行動を減少させる状況にあることを推察させる(例えば、歩行の問題)。

7. 異常行動—羽根のつつきとカニバリズム

羽根のつつきは、他のブロイラーの羽をつついたり引っ張ったりすることで、深刻な羽根の消失を招くことがある。カニバリズムは他の鳥の生肉をむしり取ることで、深刻な怪我を引き起こしたりつつかれたブロイラーを死亡させたりすることもある。これらは、多様な原因で起こる異常行動(Mench と Keeling, 2001; Rodenberg と Koene, 2004; Newberry, 2004)であり、商業用ブロイラー群においては通常見られないが、何らかの環境下では起こり得る。羽根のつつきは、時にカニバリズムへとつながる、あるいは単独で起こることがある。一度始まると、これらの問題は群れを通じて急速に広がる可能性がある。

8. 水と餌の消費

日々の水の消費量をモニタリングすることは、気温、湿度、飼料の消費やその他の関連事項を勘案した上で、疾病とその他のウェルフェアの状況を示す有用なツールとなり得る。水の供給に問題があると、敷き料が濡れたり、下痢や脱水を引き起こしたりすることがある。

餌の消費に変化がある場合も、疾病その他のウェルフェアや資料の質に問題があることを示す。

9. 成績 (パフォーマンス)

9. 1 成長率—一群の平均的ブロイラーの一日当たりの平均増体量(gr)を示す指標

9. 2 飼料要求率—一群の平均的なブロイラーが 1 Kg 増体するために必要とした飼料の量

(kg)を示す指標

9. 3 生存率—生産期間の最後に生存していたブロイラーの割合を示す指標；より一般的には、本指標は死亡率の反対の指数として計測される(X.X.4.の注釈1を参照)

10. 損傷率

ブロイラーは多くの損傷を受けやすく、これら損傷の割合は群れにおけるウェルフェアの問題の指標となり得る。損傷は他のブロイラーによるもの（引っかき、羽根の消失あるいは羽根のつきやカニバリズムによる外傷）及び環境（例えば皮膚の症状）あるいは人によるものを含む。捕獲の間にもっとも頻繁に見られる損傷は、あざ、脚の骨折及び翼の損傷である。骨折は主に大腿骨、橈骨、尺骨、叉骨及び座骨に見られる。腰関節における大腿骨の脱臼はもっとも一般的な外傷である。

11. 目の状態

結膜炎は塵やアンモニアのような刺激物があることを示している可能性がある。アンモニアレベルが高いと、角膜の炎症を引き起こし、時として失明することもある(Motrow 2008:541)。

第 X.X.5条 推奨事項

1. バイオセキュリティと動物衛生

1. 1 バイオセキュリティと疾病予防

バイオセキュリティとは、群れを一定の健康状態に維持し、特定の感染源の侵入（又は排出）を防ぐために設計された一連の措置を意味する。

バイオセキュリティ計画は、望ましい群れの健康状態とそれぞれのブロイラーの疫学集団に特有の現在の疾病リスク（地域性、外来性あるいは越境性）に見合ったものとして設計及び実施され、関連する OIE リスト疾病の陸生動物コードの関連推奨事項に基づくものである。

これらのプログラムは疾病及び病原体の主な伝播経路を管理すべきである。すなわち、

- a) 他の家きん、飼育された及び野生の動物及び人間からの直接感染
- b) 器具、施設および運搬資材などの媒介物
- c) ベクター（例えば、節足動物及び小型げっ歯類）
- d) エアロゾル
- e) 水の供給
- f) 飼料

アウトカム指標：疾病、代謝異常及び寄生虫感染の発生率、死亡率並びに成績（パフォーマンス）

1. 2 動物衛生管理／予防的投薬／獣医学的治療

動物衛生管理とは、ブロイラーの健康およびウェルフェアを最適化すべく設計されたシステムを意味する。疾病及び悪条件の予防、治療及び管理を含む。

ブロイラーのケアに責任を有する者は、飼料及び水の摂取量の変化、増量の減少、行動の変化、羽、糞あるいは他の外観的異常といった体調不良あるいは苦痛の兆候に気付くべきである。

もし責任者が体調不良あるいは苦痛の原因を特定あるいは改善できない、あるいは通報対象のリスト疾病の存在を疑うことができない場合、家きんの獣医あるいは他の資質を有したアドバイザーなどの訓練を受け経験のある者のアドバイスを求めるべきである。獣医学的治療は資質のある獣医師によって施されるべき。

獣医サービスによって適切に設定されたプログラムに準拠した、疾病の予防及び治療に関する効果的なプログラムを有するべきである。

ワクチン及びその他の投与治療は、その手順に習熟した人によって、ブロイラーのウェルフェアを考慮しながら実施されるべき。

病気あるいは怪我をしたブロイラーはできるだけ早く人道的に処分すべき。同様に、診断目的のブロイラーの殺処分も、陸生コード第 7.6 章に基づき人道的であるべき。

アウトカムベース指標：疾病、代謝異常及び寄生虫感染の発生率、死亡率並びに成績（パフォーマンス）

2. 環境及び管理

2. 1 温度環境

ブロイラーのための温度環境は発達段階に適切したものでなくてはならない。成長段階において、変化する気温と相対湿度においてブロイラーの快適な範囲を決めるためには、温度管理指標（THI）が活用できる。

環境条件がこの快適な範囲を超えて推移する場合には、ブロイラーに対する悪影響を軽減するため、異なる生産システムに合った様々な方法を用いることができる：例えば高速風や鳥を立たせておくことによって、密集したシステムの中での高温・高湿度の影響を緩和することができる。

換気は相対湿度を制御し、わらが湿気ることを防ぐために行うべきである。定期的なわらの状態を評価することが推奨される。

少なくとも、一日 2 回は温度環境の状態を点検すべきである。

アウトカムベース指標：正常・異常行動、致死率、接触性皮膚炎、水や飼料の消費量、

成績（パフォーマンス）、羽の状態

2. 2 照明

ブロイラーの休息のため、24時間周期ごとに、適切な長さの連続した暗期を設けるべきである。適切な長さの連続した明期も必要である。国内、地域、国際的な関連する推奨事項を参照すること。

ブロイラーが家きん舎に入れられてから数日間は、ブロイラーが飼料や水を見つけ、活動を刺激され、また検査を適切に行えるよう、明期においては十分な明るさを確保し、明るさを均一にしなければならない。

ブロイラーが照明の変化に徐々に慣れるようにしなければならない。

アウトカムベース指標：歩行、代謝異常、成績（パフォーマンス）、正常・異常行動、致傷率

2. 3 空気の質

新鮮な空気を供給するため、常に適切に換気を行う必要がある。

ブロイラーの背の高さにおいて、アンモニア濃度が 25 ppm を常に超えた状況にならないようにする(Kristenssen と Waathes, 2000; Jones ら, 2005)。

ほこりは最小に抑えられるべきである。このために、換気を適切に行い、敷わらの湿度を十分適切に保つといった方法がある。ブロイラーの健康とウェルフェアが人工換気システムに左右される状況においては、適切な電源のバックアップと警報システムを備えておくべきである。

アウトカムベース指標：疾病、代謝異常及び寄生虫感染の発生率（呼吸器系疾患）、行動（パンティングと羽翼を広げる行動）、目の状態、成績（パフォーマンス）、接触性皮膚炎及び鳥の空間分布

2. 4 騒音

ストレス及び恐怖行動（例えば、家きんの上に家きんが乗ること）を防ぐため、ブロイラーが突然の又は大きな音にさらされることは可能な限り少なくすべきである。

農場の位置は、可能な場合には、地域の騒音源を考慮した上で決めるべきである。

アウトカムベース指標：1日の致死率、罹患率、成績、損傷率及び恐怖反応

2. 5 栄養

ブロイラーは常に、年齢及び系統に適し、健康のために必要な栄養を含んだ飼料を与えられなくてはならない。

飼料や水は嗜好に合ったものとし、ブロイラーの健康に危害を加える可能性のある汚染物質が含まれてはならない。

有害微生物の繁殖を防ぐため、給水システムを定期的に清掃しなくてはならない。

ブロイラーが日常的に飼料に近づけるようにしなくてはならない。水は、連続的に利用可能でなくてはならない。

若い雛たちが適切な飼料と水にアクセスできるよう、特別な配慮がなされなくてはならない。

アウトカムベース指標：飼料及び水の消費量、成績（パフォーマンス）、正常・異常行動、歩行状態、疾病、代謝異常及び寄生虫感染発生率、致死率並びに損傷率

2. 6 床、寝床、休息場所の表面（敷料の質）

砂浴び及び採集をしやすいするため、柔らかい材料が与えられることが必要である。家きん舎の床は、清掃しやすい又は消毒しやすいものであることが望ましい。

ウェルフェア及び衛生面に及ぼす悪影響を最小にするため、敷料を管理しなくてはならない。近隣の群れで発生した疾病の管理のために必要であれば、敷料は取り替え又は適切に取り扱わなくてはならない。

初生雛は、怪我を防止するため、適切なタイプの床に置かなくてはならない。

敷料を床に敷くシステムを使用する際、初生雛が通常どおりに行動でき、さらに床から保護されるよう、初生雛を家きん舎に入れる前に、汚染されていない材質からなる十分な厚みを持った寝床を、床に敷いておかなくてはならない（例えば、木くず、わら、紙片、処理された使用済み敷料）。

敷料の質は、使用される材質や異なる管理方法に関連して決まる。材質のタイプは慎重に選択しなくてはならない。敷料は、埃っぽく、固まったり湿ったりする状態ではなく、乾燥して粉状になりやすい状態で維持されなくてはならない。

スラット状の床は、適切にブロイラーを補助し、怪我を防ぎ、糞が床下に落ちるもしくは適切に除去できるよう、設計、建築、維持しなくてはならない。

アウトカムベース指標：接触性皮膚炎、羽の状態、代謝異常、歩行状態、行動（砂浴び、採集）、目の状態、疾病、代謝異常及び寄生虫感染の発生率（呼吸器疾病）及び成績（パフォーマンス）

2. 7 社会的環境

生育システムにおいて、羽のつきやカニバリズムが潜在的な問題となる場合には、それらを減らすための管理手法（例えば、明度の低減、採集材料の提供、栄養調整、飼養密度の低減、適切な遺伝種の家畜の選択）を実施しなくてはならない。

もしこれらの管理手法がうまくいかない場合には、徹底的な調査を行った上で、最終的な手段として、治療的に嘴のトリミングを検討しなくてはならない。

アウトカムベース指標：損傷率、異常・正常行動、羽の状態及び死亡率

2. 8 飼養密度

ブロイラーは許容可能な密度で飼養されなくてはならない。

床面積が、適切なウェルフェア（快適さ、通常の姿勢の調節を行えること、飼料及び水へのアクセス）を確保するのに必要なものとなるよう、適切な飼養密度を決めるためには、以下のような項目が考慮されなくてはならない：管理能力、環境条件、飼育形態、生産システム、敷料の質、換気、バイオセキュリティ戦略、遺伝的種（genetic stocks）、市場に出される年齢及びブロイラーの体重

アウトカムベース指標：損傷率、接触性皮膚炎、死亡率、正常・異常行動、成績（パフォーマンス）及び羽の状態

2. 9 屋外

ブロイラーが、安全に活動できる年齢になったらすぐに、屋外に出られるようにすることができる。鳥が家きん舎を自由に出入りできるよう、十分な出口スペースを設けなくてはならない。

開放的及び半閉鎖的生産システムにおいては、屋外の管理が重要である。ブロイラーが寄生虫に感染するリスクを減らすため、土地（牧草地）の管理措置を講じなくてはならない。飼養密度を制限すること及び/又はいくつかの土地を連続的に使用すること（ローテーション）が、そのような措置に含まれ得る。

じめじめした又は泥の状態を最小にするため、屋外を適切に管理しなくてはならない。屋外は、水はけのよい土地が望ましい。

有害植物やその他の汚染物質を含むことのないよう、屋外は適切に管理されなくてはならない。特に、ブロイラーが屋内に入ることができない開放的システムでは、気候条件の悪影響（例 暑さ、寒さ、雨）からブロイラーを保護しなくてはならない。

アウトカムベース指標：正常・異常行動、寄生虫感染発生率、成績（パフォーマンス）、接触性皮膚炎、羽の状態、致死率及び罹患率

2. 10 捕食者からの保護

ブロイラーを、捕食者から保護しなければならない。

アウトカムベース指標：恐怖反応、致死率及び罹患率

2. 1 1 遺伝的選択

特定の場所や生産システムにおける育成種を選択する際には、生産量だけでなく、ウェルフェアや健康実態も考慮に入れなくてはならない。

アウトカムベース指標：歩行状態、代謝異常、致死率及び成績（パフォーマンス）

2. 1 2 苦痛を伴う措置

苦痛を伴う措置（例えば、嘴のトリミング、足の爪のトリミング、断冠）は、ブロイラーに対し、繰り返し行うべきではない。

治療的な嘴のトリミングが必要な場合には、訓練を積んだ技術のある者が行うこととし、痛みを最小にし出血を制御する方法を用いて、嘴の除去を必要最小限にするよう注意しなくてはならない。（Glatz と Miao, 2005; Hester と Shea-Moore, 2003）

外科的な去勢は、適切な鎮痛及び感染を管理する手法なく行ってはならず、また、獣医又は鍛錬を積んだ技術のある者が、獣医の監督の下で行えることとする。

アウトカムベース指標：上述の手順の使用

2. 1 3 取扱い及び点検

少なくとも1日2回はブロイラーを点検しなくてはならない。点検は、主に3つを目的とする：1) 病気もしくは怪我をしたブロイラーを特定し、治療または殺処分する、2) 群れにおけるウェルフェア又は健康上の問題を見つけ出し、改善する（例えば、飼料及び水の供給関連、気温、換気、敷料の質）、3) 死亡したブロイラーを取り除く。

点検は、例えば、ゆっくり静かに群れの中を歩くなど、ブロイラーを不必要に邪魔しないように行わなくてはならない。

ブロイラーを取り扱う際には、怪我をさせたり、不必要に怯えさせたり、ストレスを与えたりしないように行わなくてはならない。

ブロイラーが不治の病、著しい奇形や怪我を負った場合には、群れから離し、できる限り早くに人道的に殺処分しなくてはならない。

適切な能力に基づき実施される限りにおいて（陸生コード7.6.17条参照）、脊椎脱臼は少数のブロイラーを殺処分するために許容できる方法である。殺処分の全体的な記載は、陸生コード7.6条を参照のこと。

アウトカムベース指標：正常・異常行動、成績（パフォーマンス）、損傷率、致死率及び罹患率

2. 1 4 人のトレーニング

ブロイラーに責任を全ての持つ者は、責任を実行できる能力を身につけるよう適切なトレーニングを受けなくてはならない。そして、ブロイラーの行動、取扱い技術、緊急の安楽死の手順、バイオセキュリティー、疾病の一般的な兆候、ストレスや痛みといったアニマルウェルフェア上の指標及びその緩和に関する十分な知識を持っていないといけない。

アウトカムベース指標：全ての指標が適用可能性あり

2. 1 5 緊急時計画

ブロイラー生産者は、自然災害、疾病発生、機械装置の異常の影響を最小化及び軽減するための緊急時計画を作成しておかなくてはならない。計画には、機能異常を検出するための安全警報装置、バックアップ発電設備、メンテナンス供給者へのアクセス、代替暖房装備、農場の貯水能力、給水サービスへのアクセス、農場での飼料の適切な備蓄、代替飼料の供給及び緊急時の換気といった事項を含むものとする。

動物衛生に関する緊急時計画は、適切な獣医サービスにより作成又は推奨される国内計画と整合して作成されなくてはならない。

2. 1 6 農場の立地、建築及び設備

家きん農場の場所は、火事・洪水、その他の自然災害の影響を受けないよう、可能な限り安全な場所を選ばなければならない。さらに、バイオセキュリティーのリスク、化学的・物理的汚染物質への鳥の曝露、騒音及び気候条件の悪影響を回避し、又は最小にする場所に、農場を立地しなくてはならない。

ブロイラーがアクセスできる家きん舎、屋外エリア及び設備は、ブロイラーに怪我や痛みを与えることのないよう設計し、維持されなくてはならない。

家きん舎は、電気及び燃料設備は火事その他の危害を最小にするよう建設し、据え付けられなくてはならない。

ブロイラー生産者は、正しく使用されなければブロイラーのウェルフェアに危害を加えかねない全ての設備に関して、メンテナンスプログラムを作成しなくてはならない。

2. 1 7 農場での捕獲

と殺予定時期の前に、ブロイラーに給餌しない期間を過度に長くすべきではない。

水は捕獲まで飲めるようにしておくべき。

輸送に適さないブロイラー（怪我又は病気の状態が深刻）は、群れ全体を捕獲する前に殺処分しなくてはならない。

捕獲は技術を持った動物取扱者が行き、ストレスや恐怖反応、怪我をできるだけ少なくするためにあらゆる手段をとらなくてはならない。捕獲時にブロイラーが怪我をした場合には、殺処分にする。

ブロイラーの首や翼を持って取り上げてはならない。

ブロイラーを、注意深く輸送用コンテナに入れなくてはならない。

捕獲機を使用する場合には、ブロイラーの怪我やストレス、恐怖を最小限にするよう設計、操作、手入れをしなくてはならない。機械が正常に作動しない場合に備えて、緊急対応計画を作成しておくことが望ましい。

捕獲時には、ブロイラーを落ち着かせるため、薄暗いもしくは青い照明の下で行われることが望ましい。

捕獲は、と殺までの時間を最短にし、捕獲・輸送及び補綴された状況での気候的ストレスを最小とするよう計画されなくてはならない。

輸送コンテナ中の密度は、気候条件が適しており、快適さが維持されたものでなくてはならない。

コンテナは清潔で消毒し、ブロイラーの怪我を防止するよう設計し手入れされていなければならない。

アウトカムベース指標：損傷率、致死率（到着時の死亡）

2. 18 人道的殺処分

怪我をした鳥及び病気の鳥は、人道的に殺処分されなくてはならない。

脊椎脱臼は少数のブロイラーを殺処分するための人道的な方法と考えられる。（陸生コード 7.6.17 条を参照）。

ブロイラーのその他の人道的殺処分方法については、陸生コードの 7.6.5 条を参照のこと。